

日本文学研究情報組織化のための国際コラボレーション計画

安永尚志 (国文学研究資料館)

The Organization and Circulation System for Japanese Literary Research based on International Collaboration

Yasunaga Hisashi, National Institute of Japanese Literature

Abstract

From 2001 a new 5-years research project has been started in the National Institute of Japanese Literature, which is called the organization and circulation system for Japanese literary research based on international collaboration, founded by the Grant-in-Aid Scientific Research (S). The aim of the project is to construct the digital library system having functions as an archives center on Japanese literature, by international joint program. The project has three R&D themes for organizing databases and systems of practical use, such as various research directories, shared collaboration circumstances, and meta-data with common protocol.

1. はじめに

インターネットの普及により、海外において日本語資料のデジタル情報を入手することは比較的容易になってきている。しかし、学術研究で必要とされる資料および情報は質と量の面において、まだまだ貧弱で、また課題も多い。とくに、日本文学とその周辺に関わる教育と研究のためのデジタルコンテンツの充実と流通が遅れている。

日本文学並びに歴史学研究のためのデジタル資料館システム（国文学研究資料館）の構築が進んでいる。このシステムの一環として、2001年度より5ヶ年間の新たな研究プロジェクトを発足した。科学研究費基盤研究(S)「国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信」である[1]。プロジェクトは、外国の研究者を交えたコラボレーション（電子的協調作業方式）による日本文学とその周辺のためのコンテンツの充実、すなわちデジタル・アーカイブズの共同構築とその流通促進を目的としている。

具体的に欧米に共同研究拠点を設け、その国の事情と要求に沿ったコンテンツの収集と蓄積をはかる。そのため、インターネットによるコラボレーション・システムを開発し、日々の作業、研究を進めることとしている。以下、プロジェクトの概要を紹介する。

2. 研究課題

2.1 課題1：日本文学とその周辺のための国際的なコンテンツの整備

(1) 研究ディレクトリ

欧米諸国では日本研究に関わる学会並びに国際学会が活発に展開されている。しかしながら、各国での研究実態や研究動向を日本や他国において、把握することはかなり困

難である。各国における大学、研究機関、研究者、および学協会[2]などの研究ディレクトリの形成が望まれる。これらの情報を収集し、組織化し、統一的なデータベースを構築し、国内外から自由にアクセス可能とする。

一方、国際的な学会や研究会[3]も盛んであり、これらは規模の大小はあるが注目すべき研究活動も多く、このディレクトリデータベースの形成が要求されている。

(2) 研究論文目録データベース

各国で発表される研究論文の動向も日本や他国において掘みにくい。発表されている研究論文目録などを収集し、遡及データの蓄積を中心にデータベースを構築する。とくに、最新の研究論文に対しては各国の研究拠点において、直接オンライン入力と校正が可能なシステム実装をはかる。なお、学位論文の目録や所在情報も不明確で、その重要性に鑑み、データベース化を検討している。

さらに、主要な研究論文の収集を進め、研究論文そのもののデジタル化をはかる。

一方、国際学会などにおける研究報告書の収集をこれら学協会との密接な協力体制の基に進め、そのデータベース化を進める。

(3) 翻訳作品データベース

各国語に翻訳された日本文学作品も増えてきている。その実態はなかなか掘みがたく、目録を作る必要がある。データベース化をはかる。

翻訳本の収集を進め、重要な文学作品についてはフルテキストのデータベース化を進める。翻訳者との密接なコラボレーションにより、原本である日本文学作品と各国語翻訳作品とのパラレルテキストデータベースを構築する。なお、当初は日本語をベースにした2ヶ国語対応で考えるが、著名作品については多言語によるデータベースを検討する。例えば、古今和歌集などはすでに英語、仏語、伊語訳[4]などがある。

2.2 課題2：日本文学研究のためのコラボレーションシステムの共同構築

(1) システム開発

基本サーバとして、現在のデジタル資料館システム（国文学研究資料館）のコンテンツの種類、範囲、機能を拡張し、コラボレーションによる双方向運用可能な国際共同利用型アーカイブズ・システムを開発する。要求仕様などを各国と共同して作成する。一方、コラボレーション・クライアントシステムを開発研究し、各国に実装する。インターネットによる随時かつ柔軟なアクセスを可能とする。

(2) アーカイブズへの蓄積

現在のデジタル資料館システムに含まれないコンテンツの充実をはかる必要がある。各国で必要とされる資料のデジタル化を進めるが、日本国内で入力可能なものとそうではないものがある。とくに、各国の研究者とのコラボレーションにより構築することを前提とする。

(3) コラボレーションの推進

日本文学、歴史研究を国際コラボレーションによって進める。そのためには、まず上述の環境を作る必要がある。各国で実状にあった具体的な研究テーマを設定し、コラボレーションシステムにより研究を進展させる実証実験を行う。すなわち、あまり複雑ではないが重要な課題を取り上げ、具体的に検討を進める。

2.3 課題3：メタデータ・データベースの構築と活用

(1) 人文科学系共同利用機関データベースの相互運用

人文科学系研究機関（国際日本文化研究センター，国立歴史民俗博物館，東京大学史料編纂所など）の日本文学，歴史に関わる資料，情報のメタデータ・データベースの共同構築をはかる．国際標準（Dublin Core）に準拠したメタデータを設定し，研究機関相互間で国際標準型検索システム（Z39.50 プロトコル）の実証実験を進める．

(2) 各国への展開

メタデータを基本とするコラボレーションによる国際共同利用型アーカイブズ・システムの構築に進む．

3. 2001 年度の研究計画と経緯

3.1 システム研究

基本サーバを導入し，プロトタイプ版の実験を進め，また，デジタル資料館システム（国文学研究資料館）を拡張し，アーカイブズ・システムを検討した．コラボレーション・システムの要求仕様は各国の研究拠点において整えつつある．一方，人文科学系研究機関などと資源共有化のためのメタデータの共同構築の研究を開始している．

3.2 コンテンツ研究

各国の研究者との調整により，網羅的な高品質の学術研究用情報を選び，収集法，デジタル化法を検討した．例えば，冊子体目録の収集とデジタル化，入力法，その校正法，オンライン入力の方法などである．

一方，つぎの3軸によるコンテンツ形成法について研究を開始した．

- ① 概念軸：概念軸として，日本文学に関わる重要な課題，概念，テーマなどの研究情報を組織化する．
- ② 著書軸：著書軸として，著名な作品（例えば，源氏物語，古今集，万葉集など）を軸に据え，それに関わる全ての研究情報を網羅し，整備する．
- ③ 著者軸：著者軸として，著名な作家（例えば，紫式部，藤原定家，井原西鶴，夏目漱石など）を選定し，その全ての関連情報の組織化について研究する．

3.3 各国とのコラボレーション計画と課題

重要な研究拠点にイギリス，イタリア，フランス，アメリカを考えなければならない．これらの国では，BAJS：British Association for Japanese Studies（英国日本研究協会），AISTUGIA：Associazione Italiana per gli Studi Giapponesi（伊日研究学会），SFEJ：Societe Française des Etudes Japonaises（フランス日本研究学会），AAS：The Association for Asian Studies（アジア学研究学会）の活発な活動があり，研究のための基盤が整っていると考えられる．国際学会では，EAJS：European Association for Japanese Studiesの協力を得ている．以下の研究機関では，すでに研究を進めるための具体的な研究調整が進んでいる．イギリスでは上記学会の他に大英図書館，London，Oxford，Cambridge，Leeds，Sheffieldなどの大学，イタリアではVenezia，Firenze，Roma，Napoli Orienteなどの大学，フランスではParis 7大学，College de Franceなどである．また，アメリカは現在調整中

である。これらの研究機関ではコンテンツの種類と範囲が明確であり、またデジタル化が具体的に可能となっている。

一方、課題 1 では研究ディレクトリの形成と研究論文目録の組織化をはかっている。現在のデジタル資料館システム（国文学研究資料館）に無い重要な研究資料のリストアップ、およびその採取法、組織化の方策などの検討を進めている。また、イタリアにおいては翻訳日本文学作品[5]のデータベース化に着手している。

また、課題 2 の研究の進展が望まれる。例えば、連歌、俳諧、謡曲などにおける概念の引用分析、「みたて」、「もじり」の展開などをコラボレーション研究として進めるための共通基盤の形成である。また、そのプロダクトの利活用の推進である。Venezia 大学と謡曲に関する引用分析研究を開始した。さらに、具体的な研究課題によるコラボレーション研究の提案を期待している。

課題 3 は人文科学系大学共同利用機関と東京大学史料編纂所において、メタデータの設定、Z39.50 の活用など調査研究を開始している。

プロジェクトの推進においては手段などの課題も多い。当面は密接な会合により、研究調整を行わなければならない。ネットワークにより連絡調整をはかり、また共同研究を実施するためのコラボレーションシステムを立ち上げ、研究推進をはかる。

4. あとがき

本稿ではプロジェクトの概要を紹介した。開始されたばかりの計画であるので、未ださしたる成果を得ていないが、今後の展開に期待する。初年度は研究の準備を行った。研究組織による随時の研究打合せ、および課題や国毎のメーリングリスト、試行的なホームページなどによる研究推進を行った。また、関連する様々な研究会やシンポジウムに積極的に参加し、研究発表並びに報告を行った [1][6]。

最後に、本研究は本プロジェクトからの一方的な協力要請ではないので、各国における教育と研究のための具体的な基盤整備として考え、できるところから協力を得て、すなわち柔軟な共同研究を進めていくことに注意を払っている。とりわけ、データの著作権などの処理が難しい。

課題としてはこのようなプロジェクトの成否の鍵は人である。コラボレーションの実際に当る研究者の協力が望まれる。とくに、具体的にデータの入出力に当る若手の研究者の協力が必要であり、インセンティブについても検討する必要がある。

技術的課題の 1 つに、プロジェクトの性格上日本語を中心とする多国語システムとなることから、文字セットの問題がある。

参考文献

- [1] 安永尚志：科学研究費補助金基盤研究(S) #13851001, 2001 年度研究成果報告書, 2002. 2
- [2] 例えば, BAJS : <http://www.bajs.org.uk/>
- [3] 例えば, EAJS : <http://www.eajs.org/>
- [4] 例えば, Ikuko Sagiyama : Kokin Waka shu, Aricle Milano, 2000
- [5] Adriana Boscaro : Narrativa giapponese. Cnt'anni di traduzioni, Venezia Cafoscarina 2000
- [6] Yasunaga Hisashi: 国文学研究資料館における国際コラボレーション計画, AISTUGIA, 2001